

アセットマネジメント事業

▶ Asset Management Business



主要企業

中間持株会社：SBIキャピタルマネジメント

SBIインベストメント

SBIアセットマネジメント

SBI VEN CAPITAL PTE. LTD.

SBI Investment KOREA Co., Ltd.

SBI貯蓄銀行

アセットマネジメント事業では、IT、バイオテクノロジー、環境・エネルギーなどの21世紀の中核的産業への集中投資を進めています。また、経済成長著しいアジアを中心とした新興諸国において、豊富な実績により培われた信用力・ブランドをもとに現地有力パートナーとの提携を進め、グローバルな投資体制を構築するとともに、海外での金融生態系の構築を推進しています。

2015年3月期の業績

アセットマネジメント事業は、主に国内外のベンチャー企業への投資を行うベンチャーキャピタル事業と、韓国のSBI貯蓄銀行をはじめとする海外金融サービス事業で構成されます。

2015年3月期は、保有上場銘柄の株価の下落や、原油価格下落の影響を受けた米国シェールガス関連銘柄の評価損を中心に、合計で43億円の公正価値評価の変動及び売却による損失を計上しました。他方、韓国のSBI貯蓄銀行は、好調な不動産市況を背景に債権回収を推し進めたことで167億円の税引前利益を計上し、セグメント業績を支えました。これらの結果、当セグメントの営業収益は前期比9.5%減の658億円、税引前利益は同9.5%減の81億円となりました。

当セグメントはグループ会社である海外金融機関の成長に伴い安定的に収益を稼げる体制を築いていますが、株式市況等の影響を受けて業績が大きく変動する可能性があります。これは保有する営業投資有価証券について上場、非上場にかかわらず四半期ごとに公正価値評価を行い、実際の資産売却がなくてもその変動分が評価損益として営業収益に計上されるためです。

アセットマネジメント事業の通期業績 (IFRS)

(億円)

	2014年3月期	2015年3月期
営業収益	727	658
税引前利益	90	81
公正価値評価の変動及び売却による損益	94	△43*
SBI貯蓄銀行	40	167
その他 (販管費・持分法損益等)	△44	△43

※ 公正価値評価の変動による損益及び売却損益の内訳

- ・未上場銘柄計7億円、うち米国シェールガス関連銘柄は△34億円
- ・上場銘柄等は△50億円(取得原価からの含み益は+29億円)

国内外で活発に投資を継続、EXITは順調に増加

川島 克哉

SBIインベストメント(株)
代表取締役社長



国内屈指のベンチャーキャピタル

SBIインベストメントは、SBIグループのアセットマネジメント事業における中核的企業であり、「新産業クリエーター」として21世紀の中核的産業の創造及び育成を担うリーディング・カンパニーになるという経営理念の下、ベンチャーキャピタルファンドの運用・管理を行う、国内屈指のベンチャーキャピタルです。

SBIグループの1999年の創業以降の累計投資社数は、2015年3月末現在で国内外合わせて1,043社、そのうち184社がIPOやM&Aという形でEXITを実現しており、そのEXIT比率は17.6%と高いパフォーマンスを誇っています。

グループ運用資産の状況(2015年3月末現在)

プライベート・エクイティ等		2,947億円	
(現預金及び未払込額1,031億円を含む ※3)		(億円)	
業種別		地域別	
IT・インターネット	258	日本	887
バイオ・ヘルス・医療	452	中国	293
サービス	186	韓国	252
素材・化学関連	22	台湾	20
環境・エネルギー関連	206	東南アジア	115
小売・外食	161	インド	28
建設・不動産	16	米国	288
機械・自動車	83	その他	33
金融	363		
その他	167		
合計	1,916	合計	1,916

投資信託等	2,306億円※4
(億円)	
投資信託	1,280
投資顧問	988
投資法人	38

※1 2015年3月末における為替レートを適用

※2 億円未満は四捨五入

※3 運用ファンドで保有する現預金のほか、出資約束金のうち今後のキャピタルコールにより出資者から払込を受けることが可能な金額(出資約束未払込額)を含む。

※4 SBIアセットマネジメントが運用指図を行っているファンドにおいて、モーニングスター・アセット・マネジメントが投資助言を行っている場合は、投資信託と投資顧問のそれぞれに計上しており、重複額が240億円ある。

そのうち、SBIインベストメントが運用・管理に携わったベンチャーキャピタルファンドの1999年の創業以降の累計投資社数は、2015年3月末現在で661社、そのうち134社がEXITを実現しており、EXIT比率は20.3%となっています。

成長分野及び海外へ積極投資

2015年3月期におけるSBIグループの投資実行額は196億円、投資実行社数は75社となりました。これらのうち、21世紀の中核的産業と位置づけるIT、バイオテクノロジー、環境・エネルギー分野とともに、インターネットと本質的に親和性が高いと言われる金融分野の66社に対し、全投資実行額の84.0%にあたる165億円の投資を実行しました。また、日本企業のみならず海外企業へも積極的に投資を行っており、全投資実行額の68.7%にあたる135億円を、アジアを中心とした海外企業47社へ投資しました。

2015年3月末におけるプライベート・エクイティ等のグループ運用資産(現預金及び未払込額を除く)は1,916億円となりました。その地域別の内訳としては日本が887億円、海外が1,029億円となっており、残高ベースにおいてもアジアを中心とする海外への投資の割合が高くなっています。これは他の国内ベンチャーキャピタルには見られない特徴の一つで、約20の有力な海外現地パートナーと連携して有望な海外投資先を発掘するグローバルな投資体制を構築しています。

高い育成力で投資先企業のバリューアップを実現

SBIインベストメントは、投資先の事業ステージに応じた戦略立案、役員派遣、内部管理体制の構築等のフルハンズオン形式による育成を行っています。同社における従業員一人あたりの国内投資社数は他社よりも少ない数に絞られており、投資先のバリューアップをより深く追求できる体制づくりをしています。

加えて、IPOにあたっては圧倒的な顧客基盤を有するSBI証券やSBIマネープラザを、海外進出にあたってはSBIグループの海外拠点や現地有力パートナーのネットワークを活用するなど、グループを挙げて支援する仕組みが整っており、投資先のバリューアップ実現に向けて積極的に関与するだけでなく、株式公開まで一貫して支援するなど他に類を見ない特色を有しています。

このように、投資先のバリューアップを徹底的に図ってきた結果、1社あたりのIPOの規模は他のベンチャーキャピタルと比べても大きく、SBIインベストメントはベンチャーキャピタルとして後発でありながら優位性を高めています。

14社がIPO・M&Aを実現

日本のIPOマーケットの状況を見ますと、2015年3月期のIPO件数は前期比33社増の86社となり、5期連続での増加と引き続き好調に推移しました。

SBIグループの投資先企業からは、2015年3月期中に14社がIPOまたはM&Aを実現しました。その内訳は国内IPOが6社、海外IPOが4社、そしてM&Aが4社となっています。

2016年3月期のIPO・M&A社数については、2015年3月期より6社多い、20社となる見通しです。

2015年3月期:投資先企業のIPO・M&A実績

社数	年月	投資先企業名	IPO/M&A	事業内容	本社所在地
国内:9社 海外:5社	2014年 4月	(株)スマート・ナビ	M&A	タブレット端末を利用した営業支援・顧客管理・販売促進等のソリューションの提供	日本
	2014年 6月	(株)ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング	IPO(東証ジャスダック)	保険代理事業及び派遣事業	日本
	2014年 7月	日本ビューホテル(株)	IPO(東証2部)	ホテル等宿泊施設の運営、運営指導またはFC展開並びに遊園地の運営	日本
	2014年 8月	WH Group Limited (萬洲国際有限公司)	IPO(香港メインボード)	世界最大手の豚肉加工会社	中国
	2014年 8月	Pandora TV Co., Ltd	IPO(韓国KONEX)	韓国最大級である動画共有サイト「Pandora.TV」の運営	韓国
	2014年 9月	GCS HOLDINGS, INC. (環宇通訊半導體控股股份有限公司)	IPO(台湾GTSM)	長距離高速通信用半導体ファウンドリー	米国
	2014年 9月	(株)リボミック	IPO(東証マザーズ)	創業プラットフォーム「RiboARTシステム」によるRNAアプタマーを用いた分子標的薬の研究・開発	日本
	2014年10月	(株)ヤッパ	M&A	グラフィックテクノロジーの開発・電子書籍の開発及び販売	日本
	2014年10月	Kakao Corp	M&A	モバイルメッセージングプラットフォーム(KakaoTalk)の提供	韓国
	2014年10月	(株)セレス	IPO(東証マザーズ)	スマートフォンメディアの企画・運営等	日本
	2014年12月	東京ボード工業(株)	IPO(東証2部)	パーティクルボードの製造及び販売	日本
	2014年12月	Yest Co., Ltd.	IPO(韓国KONEX)	半導体製造用機械製造業	韓国
	2015年 1月	(株)アップヒルズ	M&A	美容院・ヘアサロン予約サイト「かみまど」掲載店舗へのサポート、及び広告枠の販売	日本
	2015年 3月	(株)モバイルファクトリー	IPO(東証マザーズ)	ソーシャルアプリ事業、モバイルコンテンツ事業	日本

事業再生は終結し、早期IPOの実現に向けた新たな飛躍のステージへ

中村 秀生

(株)SBI貯蓄銀行
代表取締役社長



韓国会計基準においても黒字を達成し、事業再生は終結

2013年3月に連結子会社化したSBI貯蓄銀行は、韓国において個人・自営業者・中小企業などを主な顧客とする貯蓄銀行事業を行っています。2014年10月には、SBI貯蓄銀行は3つの傘下銀行と合併し、韓国最大の貯蓄銀行となりました。

韓国では政府の不動産取引活性化策が奏功し、住宅価格が急速な回復を続けています。この好調な不動産市況を背景にプロジェクト・ファイナンスや消費者ローンの不良債権の回収を強力に推進し簿価を上回る回収を実現したことで、2015年3月期の業績はIFRSベースで、営業収益が前期比13.7%増の416億円、税引前利益は前期比で約4.2倍の167億円と大幅に増加しました。

連結子会社化前の不良債権処理の影響を受けていた韓国会計基準ベースにおいても、2015年6月期第3四半期（2015年1月～3月）は前四半期に続いて四半期黒字を、第3四半期累計（2014年7月～2015年3月）でも黒字を達成しており、名実ともに韓国No.1の貯蓄銀行となり同行の事業再生が終結しました。

財務の健全性は大幅に向上

韓国会計基準ベースでの自己資本規制比率は2015年3月末現在で11.3%と、財務状況は健全化しています。

また、2014年からは正常債権が増加すると同時に、延滞率は2015年3月末現在で26.8%と、前年同月比で19.9ポイントも減少しており、債権自体の健全性も大幅に向上しています。

さらなる飛躍に向けた戦略

事業再生が終結したSBI貯蓄銀行は、不良債権の最終処理を進めながら法人向けの投融資業務や個人向けの融資業務の強化を行うなど、早期のIPOを見据えさらなる事業拡大に向けた取り組みを積極的に推進しています。取扱商品の多様化も順調に進展しており、自動車ローンや韓国の貯蓄銀行として初となるインターネットを通じた住宅担保ローンの展開を開始しています。また、今後は規制緩和の気運をとらえ、オンライン銀行化も積極的に推進していきます。



新入社員が参加したテレビCMの撮影風景
(ミョンドン支店)

2015年6月期業績推移（韓国会計基準）

（億ウォン）

	第1四半期* (2014年7月～9月)	第2四半期* (2014年10月～12月)	第3四半期 (2015年1月～3月)	第3四半期累計 (2014年7月～2015年3月)
営業収益	1,113	1,100	1,161	3,375
営業利益	△161	145	240	224
税引前利益	△199	101	274	176

※ 2014年7月～10月の4ヶ月分の業績は合併前における旧SBI貯蓄銀行と3つの傘下銀行の単体決算の合算値から持分法損益を調整したものの。別途SBI貯蓄銀行にて開示される業績では、2014年7月～10月の業績は旧SBI貯蓄銀行の単体決算の数値となっている。